



ひかりのこつうしん No.8

ひかりの子幼稚園・保育園

2020年12月

「クリスマスを終えて」

Zoom配信の無観客でのクリスマス会を皆様のご理解とご協力でご実現できましたこと、心より感謝いたします。

ライブでは音声の途切れ、ピントずれなどのトラブルもありましたこと、申し訳なくお詫び申し上げます。編集し直し再放送、再々放送には間に合い、なんとか無事にお届けすることができ、職員一同胸をなで下しています。

リアルタイムで当日の子どもたちの姿を、おうちのお母さん、職場にいるお父さんが見てくださり、はたまた外国に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんとも Zoomで繋がった、夜の再々放送ではみんなで観賞会をしたこと、卒園した兄弟も一緒に見ることもできたことなど、うれしい感想を頂き、職員の喜びとなりました。

こひつじ組の子どもたちは今までにない緊張をしている子もいましたが、カメラの向こうにいるおうちの人たちに「クリスマスページェント」を、「声」を、「姿」を届けようという意気込みが伝わってきました。

ある子は緊張でのががカラカラになって出だしの第1声がかすれて、「あっしまった！」という表情をしました。またある子は今まで出したことのない大きな声が出せ、自分の出した声にびっくりし、思わず次のお言葉が真っ白になってしまったりと、当日様々な姿がありました。でも見事に気持ちを切り替えて最後までお言葉が言えました。

おうちの方に届けたい「思い」がひしひし伝わり、それぞれの子どもたちの心に芽生えた「頑張り」がありました。

「大きい声で言えたな」と横に並んでいる友達が舞台上でにっこり、舞台の下で見ている子は「いい声で言うてたな」「今のすごかったな」友達の姿を認め合い、子どもたちが自然と拍手する場面もありました。

ページェントでは発達のゆっくりなお子さんが予定とは違う動きをしてしまった時でも、強制せず、大人ができるだけ出ないように見守って練習してきました。当日逆方向へ歩き出した友達の手を引き、声をかけ、定位置に連れていこうとする姿、羊をなんとか袋から出すのを手伝おうとする姿、優しいクラスメートの存在がありました。

Zoom配信をみて下さった、あるおばあちゃまから頂いたお手紙です。

「感動のクリスマス会をみせて頂きありがとうございました。劇の内容もさることながら、子どもたちが認め合い、助け合い、優しさとお愛を見て涙腺がゆるみました。子どもたちが成長した時、どんなすてきな社会になることでしょう…。嬉しくて一筆…。」

こばと組は基本3クラス同じ絵本「三匹のこぶた」からの「劇遊び」でしたが、最後の結末は自分たちで考えたクラスのオリジナルでした。配役も動き方も子どもたちと考えました。大道具も、お面も自分たちで作り、大忙しの1ヶ月でした。ホールで練習する日や、劇の話し合いをする日は、いつもより遊ぶ時間が短くなってしまったけれど、「人の話を聴く」「パッと集中する」「友達を応援する」ことも自然と身についた劇遊びでした。

3クラス共通の劇なので「見せあいっこ」もしました。

「オオカミの感じがすごくできてカッコよかった」「声がよく聞こえていた」「下で待っている人がおしゃべりせず、歌を一生懸命歌っていた」など見合うことは、子どもたちの刺激になり「見てたらなんか今から劇やりたくなったぞお！」と感想を言いながらホールを出ていく子もいました。

最終日のこばと3組が劇を終了してホールを出たとき、なんとこばと1組とこばと2組のお友達と先生が花道を作ってくれて「おつかれさま！」と3組を待っていてくれました。

同じ劇をして協力し作り上げた子どもと先生しか味わえない達成感と歓声が、そこには溢れていました。そしてホールで生配信を終えたZoomチーム、写真班、ビデオ屋さんにも子どもたちから「お疲れ様！」「ありがとう！」のサプライズの拍手があり、相手を思いやる優しい気持ちに感激しました。

こうさぎ組はいつもとは違う雰囲気にはびっくりしないように、本番前日、テレビカメラやパソコンや関係者がたくさん並び、放送局のようにになっているホールを見学しました。

この場所から手を振るとおうちの人が見ているパソコンに、こうして映るんだよと実際にパソコンを見せてもらっていました。当日は緊張していましたが、終わって感想を聞くと「宇宙に行くほど楽しかった！」「踊りだしたいくらいうれしかった！」とこうさぎさんらしいかわいい声がありました。

また「応援グッズ」のご協力ありがとうございました。かわいがっているぬいぐるみを持ってきてくれる子が1番多く、家族の写真やお手紙、手作りのお人形やメッセージ、「ホールには行けないけれど応援しているから頑張っ！」という思いが伝わりました。見えないものを信じて、それを力にかえて、子どもたちの励みになりましたこと感謝いたします。

保護者の方々と一緒にクリスマスをお祝いできなかったことは本当に残念でしたが、当日の子どもたちの姿を見ていると、新しい取り組みに価値を見出し、そこにも良さがあると感じることができたのは紛れもないことでした。

子どもの成長には「時」があります。それはいつでも応援してくれる周りの環境、自分の気持ちを受け止めてもらった安心感、そして今年はカメラの向こうに大好きなおうちの人に届けたい思いが合わさり、子どもたちの力になり、様々な壁を乗り越えたのではないかと思います。

クリスマス会を終え2学期残りの10日間、子どもたちが思いっきり遊びこんでほしいと願っています。

コロナ禍にあっても、それぞれのご家庭が、喜びに溢れるクリスマスとなりますようお祈りしています。皆様のご協力に心より感謝しつつ…。

園長 松本 直子